OUKA
The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

| | |
|---|---|
| Title | 北疆遺跡参観報告 |
| Author(s) | 荒川, 正晴 |
| Citation | 内陸アジア史研究. 1993, 9, p. 24-35 |
| Version Type | VoR |
| URL | https://hdl.handle.net/11094/88443 |
| rights | |
| Note | |

*The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA*

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

# 北疆遺跡参観報告

（1）日時；１９９２年7月２６日（日）～8月２３日（日）

（2）参加者

（日本側）① 長澤和俊（早稲田大学文学部教授）
② 桜井清彦（昭和女子大学文学部教授）
③ 大橋一章（早稲田大学文学部教授）
④ 荒川正晴（早稲田大学文学部非常勤講師）

（中国側）① 王炳華（新疆文物考古研究所所長）
② 李肖 （新疆文物考古研究所研修員）
③ 卡馬力丁（新疆大学経済管理系講師）

（3）参観日程

| | |
|---|---|
| 7月27日～31日 | 烏魯木斉 |
| 7月31日～8月1日 | 烏魯木斉～奎屯 |
| 8月 1日 | 奎屯 ～伊寧 |
| 8月 2日～3日 | 伊寧 |
| 8月 4日 | 伊寧 ～奎屯 |
| 8月 5日 | 奎屯 ～塔城 |
| 8月 6日 | 塔城 |
| 8月 7日 | 塔城 ～烏魯木斉 |
| 8月 8日 | 烏魯木斉 |
| 8月 9日 | 烏魯木斉～呼図壁～烏魯木斉 |
| 8月10日 | 烏魯木斉～吐魯番 |
| 8月11日 | 吐魯番 |
| 8月12日 | 吐魯番 ～鄯善 |
| 8月13日 | 鄯善 ～哈密 |
| 8月14日～15日 | 哈密 |
| 8月16日 | 哈密 ～巴里坤 |

| | |
|---|---|
| 8月17日 | 巴里坤　～木墨 |
| 8月18日 | 木墨　　～奇台 |
| 8月19日 | 奇台　　～吉木薩尔 |
| 8月20日 | 吉木薩尔 |
| 8月21日 | 吉木薩尔～阜康～烏魯木斉 |
| 8月22日～23日 | 烏魯木斉 |

（4）訪問機関

【新疆維吾爾自治区文化庁】

| | | |
|---|---|---|
| 1 | 解　耀華 | 新疆維吾爾自治区文化庁　副庁長 |
| 2 | 韓　翔 | 新疆維吾爾自治区文化庁　文物処処長 |
| 3 | 王　経奎 | 新疆維吾爾自治区文化庁　文物処 |

【新疆文物考古研究所】

| | | |
|---|---|---|
| 1 | 王　炳華 | 新疆文物考古研究所　所長　研究員 |
| 2 | 王　明哲 | 新疆文物考古研究所　副所長　研究員 |
| 3 | 李　肖 | 新疆文物考古研究所　研修員 |

【烏蘇県文化館】

| | | |
|---|---|---|
| 1 | 郜　百峰 | |

【伊犁文管所】

| | | |
|---|---|---|
| 1 | 陶慧丁 | 伊犁文管所　副所長 |
| 2 | 艾克拉木・米吉提 | |

【伊犁文物処】

| | | |
|---|---|---|
| 1 | 趙徳栄 | 伊犁文物処　処長 |

【塔城地区文化処】

| | | |
|---|---|---|
| 1 | 孫志立 | 塔城地区文化処　処長 |

【塔城地区文物管理所】

1　党　彤　　塔城地区文物管理所　所長
2　郭　斌　　塔城地区文物管理所　総務

【呼図壁県文管所】

1　張　風祝　　呼図壁県文管所　所長

【鄯善県文化局】

1　卡徳尔　　鄯善県文化局　局長
2　吾甫尔　　鄯善県吐峪郷吐峪溝千仏洞文物管理員

【哈密地区文化処】

1　哈徳尔　　哈密地区文化処　処長
2　王　潤

【哈密地区文物管理所】

1　埃買提

【奇台県文化局】

1　侯　文如
2　黄　偉東
3　綜　華林
4　李　友琦

【吉木薩尔県文物保護管理所】

1　杜　志欣　　吉木薩尔文管所　所長
2　王　秉誠　　吉木薩尔文管所　干部
3　李　功仁　　館員工程師

【奇台県人民政府】

1　尚　相智　　副県長

（５）参観遺址

（Ａ）昌吉回族自治州

① 頭墩台子烽燧台（瑪納斯県城の西南約15㎞、瑪納斯県清水河子郷頭墩台子村）[1]

N 44° 10′ 56″
E 86° 07′ 38″

② 呼図壁岩画(康家石門子岩画)（呼図壁県城西南75㎞、雀尔溝鎮西南約13㎞）[2]

N 43° 50′ 58″
E 86° 19′ 04″

⑨ 五運清真寺（阜康県九運街五運村中）[3]

N 44° 09′ 39″
E 88° 06′ 41″

⑩ 六運古城（阜康県九運街郷西北約3.5㎞）[4]

N 44° 10′ 38″
E 88° 01′ 57″

③ 北庭故城（吉木薩尔県城北10㎞、北庭郷政府北４㎞）[5]

N 44° 05′ 54″
E 89° 12′ 42″

④　北庭西大寺（北庭故城西500m、北庭郷西上湖村委会処）[6]

N 44° 05′ 50″
E 89° 11′ 16″

⑤　千仏洞（吉木薩尔県城西南５km）[7]

N 43° 58′ 29″
E 86° 07′ 18″

⑥　小西溝石人（吉木薩尔県泉子街郷西約２kmの小西溝村南段）[8]

N 43° 48′ 20″
E 89° 07′ 58″

⑦　小西溝遺址（吉木薩尔県泉子街郷政府西北３km）[9]

N 43° 48′ 12″
E 89° 07′ 47″

⑧　東大龍口遺址（吉木薩尔県泉子街郷西南約7.5km。東大龍口溝口卡子湾）[10]

N 43° 44′ 03″
E 89° 06′ 35″

⑪　唐朝墩古城（奇台県城西北郊）[11]

N 44° 01′ 34″
E 89° 35′ 23″

⑫ 石城子古城（奇台県城南50km、半截溝郷南約６km）[12]

N 43° 36′ 58″
E 89° 45′ 36″

（B）伊犁哈薩克自治州・塔城地区

① 烏蘇県石人墓（奎屯市南約47km）[13]

N 44° 10′ 40″
E 85° 07′ 18″

② 博孜達克岩画（塔城市東方約数十km）

N 46° 05′ 34″
E 82° 48′ 15″

③ 阿西勒岩画（塔城市北東約15km）

N 46° 55′ 21″
E 83° 13′ 23″

（C）伊犁哈薩克自治州・伊犁地区

① 吐虎魯克鉄木尔汗麻札（霍城県城北45km。61団場部西側）[14]

N 44° 14′ 51″
E 80° 31′ 51″

② 阿里馬里克古城（霍城県城北東10.7km）[15]

N 44° 15′ 43″
E 80° 30′ 40″

③ 磨河旧城（伊寧市北58km。三道河郷塔勒奇村北方）[16]

N 44° 03′ 02″
E 80° 47′ 19″

④ 恵遠旧城（恵遠老城）（霍城県の東南、恵遠郷伊犁河畔）[17]

N 43° 56′ 09″
E 80° 56′ 02″

⑤ 銀頂寺（察布查尔錫伯自治県海努克郷・海努克村南３km）[18]

N 43° 42′ 06″
E 81° 17′ 49″

⑥ 海努克古城（察布查尔錫伯自治県海努克郷の東北約6.6km）[19]

N 43° 45′ 36″
E 81° 21′ 58″

⑦ 吐魯番圩孜古城（伊寧市東北26.2km、吐魯番圩孜村北方）[20]

N 43° 59′ 49″
E 81° 30′ 51″

（D）吐魯番地区

① 石墨（托克遜県城西約50km、阿拉溝口鉄路大橋東約250m）[21]

N 42° 49′ 41″
E 87° 52′ 49″

② 雅爾湖石窟（吐魯番市西約10km）[22]

N 42° 57′ 46″
E 89° 03′ 31″

③ 吐峪溝石窟（吐魯番市鄯善県城西南約40km）[23]

N 42° 51′ 32″
E 89° 41′ 56″

④ 奇康湖石窟（勝金郷七泉湖西約600m）[24]

N 42° 57′ 10″
E 89° 35′ 24″

（E）哈密地区

① 五堡古墓群（哈密市西南約70km、五堡郷）

N 42° 53′ 04″
E 92° 50′ 09″

② 白楊溝仏寺（哈密市西約50㎞、柳樹泉農場付近）

N 43° 00′ 51″
E 92° 58′ 48″

③ 拉布橋克古城（哈密市西南約60㎞、四堡）

N 42° 56′ 13″
E 92° 54′ 30″

④ 蓋斯墓（哈密市区西部）

⑤ 回王陵（哈密市区南約２㎞、回城郷）

N 42° 48′ 31″
E 93° 29′ 11″

⑥ 廟児溝岩画（哈密市東北約30㎞）

N 42° 53′ 23″
E 93° 53′ 41″

⑦ 廟児溝寺院址（哈密市東北約30㎞）

N 42° 53′ 36″
E 93° 56′ 35″

（F）巴里坤哈薩克自治県

① 大河古城（巴里坤哈薩克自治県、県城北26km）[25]

| |
|---|
| N 43° 39′ 02″ |
| E 93° 10′ 25″ |

② 鎮西満城[26]

③ 巴里坤漢城[27]

| |
|---|
| N 43° 35′ 54″ |
| E 93° 00′ 03″ |

【注】

1） 新疆維吾爾自治区文物普査弁公室・昌吉回族自治州文物普査隊「昌吉回族自治州文物普査資料」『新疆文物』1989年第３期、p.85。「昌吉州文物概況一覧表」（以下「一覧表」と略称）No.174。この普査報告では、これを清代の烽火台とする。規模は、底部5.7×5m、残高6m、版築作り。

2） 王炳華「呼図壁県康家石門子生殖崇拝岩雕刻画」『新疆文物』1988年第２期。同編著『新疆天山生殖崇拝巖画』文物出版社、1991年。陳兆復『中国岩画発現史』上海人民出版社、1991年、pp.142-145。「昌吉回族自治州文物普査資料」pp.94-95。「一覧表」No.164。

3） 清代。「一覧表」No.129。

4） 唐～明代。これを唐の倶六城守捉に比定する説がある。戴良佐「唐代庭州守捉城今地考」『西北史地』1992年第１期、p.40。南北長400m、東西寛300m。版築。「一覧表」No.130。

5） 中国社会科学院考古研究所新疆工作隊「新疆吉木薩尔北庭古城調査」『考古』1982年第２期、pp.165-175。「一覧表」No.89。

6） 中国社会科学院考古研究所新疆工作隊「新疆吉木薩尔高昌回鶻佛寺遺址」『考古』1983年第７期、pp.618-623。中国社会科学院考古研究所編著『北庭高昌回鶻佛寺遺址』

遼寧美術出版社、1991年。「一覧表」No.90。

7） 清代。文革時に破壊される。徐松『西域水道記』巻三に見える保恵城の南十五里に位置する南山の山麓にある千仏洞のことか。「一覧表」No.95。

8） 「昌吉回族自治州文物普査資料」pp.75-76。「一覧表」No.98。石人の写真は、『新疆文物』1989年第３期、図版四に掲載されている。

9） 新石器～唐代。「昌吉回族自治州文物普査資料」p.65。「一覧表」No.97。

10） 唐～元代。唐代の石會漢戍の遺址の可能性あり。石會は石舎の誤りか。「昌吉回族自治州文物普査資料」pp.65-66。「一覧表」No.100。

11） 奇台県文化館「新疆奇台境内的漢唐遺址調査」『考古学集刊』５、pp.210-213。唐の庭州蒲類県の遺址か。長方形。東西長314m。南北残長490m。「一覧表」No.79。

12） 奇台県文化館「新疆奇台境内的漢唐遺址調査」pp.206-210。漢代の疏勒城の遺址か。南北長138m。東西194m。「昌吉回族自治州文物普査資料」p.59。「一覧表」No.54。

13） この石人に関する報告はまだないが、現在は西方向に頭を向けて倒れている。顔のみが表現される簡単な形式のもの。

14） 禿黒魯帖木尓とも表記する。新疆維吾爾自治区文物普査弁公室・伊犁地区文物普査隊「伊犁地区文物普査報告」『新疆文物』1990年第２期所掲の「伊犁地区文物概況一覧表」（以下「伊犁一覧表」と略称）No.39。

15） 阿力麻里城、阿里馬城とも表記する。元朝時代の城址。「伊犁一覧表」No.23。黄文弼『新疆考古発掘報告』（1957-1958）文物出版社、1983年、p.16。なお黄文弼「元阿力麻里古城考」『考古』1963年第10期（『西北史地論叢』上海人民出版社、1981年）所載の「阿力麻里古城位置示意図」は、伊犁周辺に存在する城址の相互の位置を確認するのに便利である。

16） 「伊犁地区文物普査報告」pp.27-28。「伊犁一覧表」No.22。黄文弼、前掲書、pp.15-16。黄文弼によれば、この城址の活動時期を八世紀から一三世紀に推測している。

17） 「伊犁地区文物普査報告」pp.30-31。「伊犁一覧表」No.28。

18） 「伊犁地区文物普査報告」。「伊犁一覧表」No.63。黄文弼、前掲書、p.18。『西域水道記』巻四所引の「西蔵総伝」参照。

19） 「伊犁一覧表」No.62。黄文弼、前掲書、pp.16-17。黄文弼は、これを阿力麻里城と同じく、一三世紀前後の城址とし、清初に至って再びその活動を回復したと推測される。

20)　「伊犂一覧表」No.11。黄文弼、前掲書、pp.14-15。方形。城周1400m。黄文弼は、八世紀前後には、既に築城され、一三世紀にもなお存続していたとされる。これまで、阿力麻里城を唐代の弓月城に比定するのが有力となっていたが［王國維「長春真人西游記注」（『蒙古史料四種』所収、1926年）巻上、38丁。松田壽男「弓月についての考」『古代天山の歴史地理学的研究』早稲田大学出版部、1970年、pp.324-356。岑仲勉「弓月之今地及其語原」『西突厥史料補闕及考證』pp.186-193。王小甫「“弓月”名義考」『季羨林教授八十華誕紀念論文集』（上）、江西人民出版社、1991年、pp.351-363。］、易漫白「弓月城及双河位置考」『新疆歴史論文続集』新疆人民出版社、1982年、p.205では、この吐魯番圩孜古城を弓月城に比定している。

21)　塔什吐尔・阿拉溝烽火台とも呼ばれる。自治区文物普査弁公室・烏魯木斉市文物普査隊「烏魯木斉市文物普査資料」『新疆文物』1991年第１期、p.５、同報告所掲の「烏魯木斉市文物概況一覧表」No.８。自治区文物普査弁公室・吐魯番地区文物普査隊「吐魯番地区普査資料彙編」『新疆文物』1988年第３期、p.51、「吐魯番地区文物分布目録」No.11。本遺址からは、唐代烽鋪関係の文書断片が発見されている。拙稿「吐魯番・烏魯木斉周辺地域の史跡について」『内陸アジア史研究』７・８号、1992年、p.67参照。

22)　「吐魯番地区文物分布目録」No.50。『中国壁画全集　新疆６吐魯番』遼寧美術出版社・新疆人民出版社、1990年。崖爾湖石窟のほかに吐峪溝石窟や七康湖（奇康湖）石窟も収められている。

23)　「吐魯番地区文物分布目録」No.127-128。

24)　七康湖とも表記する。「吐魯番地区文物分布目録」No.81には、七泉湖千仏洞とする。

25) 哈密地区文管所「巴里坤大河故城調査」『新疆文物』1987年第３期、pp.32-34。黄文弼、前掲書、pp.12-13。長方形。東西長360m。最寛部210m。

26)　会寧城とも呼ばれる。乾隆37年（1772）築城。

27)　雍正９年（1731）築城。

（文責、荒川正晴）